



デンマークの 食と暮らし研究会

NEWS LETTER MAR 2024

発行: NPO法人デンマークの食と暮らし研究所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館12F
Tel 03-3213-4801 Fax 03-3213-5406 ホームページ : <http://www.danishforum.jp/> メール: info@danishforum.jp

気候変動に対応した牧草作り



このニュースレターの読者の皆さんは、デンマークが健康的で効率的、そして美味しい豚の品種改良を世界に先駆けて進めていることをご存じかと思います。しかし、豚以外にも例えば牧草の種子開発でデンマークが同じような地位を占めていることをご存じでしょうか。デンマークはEUの牧草とクローバーの種子生産の約半分を占め、世界貿易の4分の1を占めています。牧草種子生産の世界的なリーダーであるデンマークは、気候変動による干ばつや洪水といった問題に対応する新しい品種の開発に取り組んできています。

DLF社は、種子生産農家による協同組合企業であり、組織化された育種と選抜方法によって、農薬・肥料・水の必要性を最小限に抑えながら、厳しい栽培条件下で収量を最大化させる品種開発に多大な時間と財源を費やしてきました。しかし高い収量を得られる牧草だからと言って一様に優れた牧草であるわけではありません。農業が環境に与える影響が注目される中、同社が開発した牧草の新品種は炭素を土壤に固定させ、有機物をろ過することで、水質への影響を減らすのに高い効果を示していることが注目されています。ご存じの通り、牧草は主に乳牛用飼料として使用されており、牧草の乳牛体内での消化効率は、乳量とメタン排出量の両方に影響を与えます。今日では牧草の収量のみならず、消化効率とメタン排出量の削減についても、酪農業界の持続可能な未来を創り出すための重要な指標として広く認識されています。持続可能な農業のための牧草という観点から、デンマークの牧草は環境対応についても世界で最も進んでいると言って良いでしょう。(J.Ring)

高齢者福祉の考え方

デンマークは、OECD各国の中でも高齢化が早く進んだためあって、高齢者福祉に対する取り組みの草分け的存在です。デンマークのモデルは、高齢者が出来るだけ自立した生活を送れるようにするために、高齢者に自信を持たせるよう作られています。この考え方の基盤には、「高齢福祉の三原則」と「在宅介護の方針」があります。「高齢者福祉の三原則」は、一つ目が「生活の継続性の原則」で、できる限りそれまでと変わらない暮らしができるよう配慮することになります。二つ目は「自己決定の原則」で、高齢者自身が生き方・暮らし方を自分で決定し、周囲はその選択を尊重することです。三つ目は、「残存能力活用の原則」で、本人ができることまで手助けしてしまうのは能力の低下につながるから、やっではないかということになります。

「在宅介護の方針」とは、高齢者が利用する介護施設によって、介護サービスの質・量に落差が生じるのは不合理・不平等であるということから、施設を建設整備するのではなく在宅で暮らす人それぞれのニーズに合わせて在宅のまま介護サービスを提供してゆくことのできる体制を整えようという方針です。

デンマークでは1960年代～1970年代にかけて、プライエムと呼ばれる集団老人ホームが大量に建設され、1980年代末には5万床に達しました。しかしながら先に述べた「高齢福祉の三原則」と「在宅介護の方針」に則って、プライエムの新規建設は停止され、その代わりに既存住宅に在宅したままでの生活機能の担保と、それに必要な介護サービスを提供でき得る「高齢者住宅」の整備に力が注がれました。2006年にはこうした高齢者住宅は6万戸にまで達し、反対にプライエムは高齢者住宅に建て替えられるなどして1.5万戸まで減り、その数は完全に逆転しています。

日本では特別養護老人ホームがデンマークのプライエムに相当する施設と考えられます。2021年時点での特別養護老人ホームの施設数は約1万施設、定員数は約80万人となり、2009年と比べると約1.5倍に増加しています。

デンマークと日本、どちらのモデルが良いか一概に言うことはできませんが、両国共に高齢者のためのより良いサービスモデルを見つける為の試行錯誤を続けてゆくこととなります。(J.Ring)



こころの健康について(Quality of Lifeの観点から)

皆さんはQALY(クオリー)という言葉をご存じでしょうか？英語では「Quality-Adjusted Life Year」、日本語では「質調整生存年」と訳され、医療行為における費用対効果を測る指標として活用されています。計算に必要な縦軸のQOLは生活の質を表すもので、0(死亡)から1(健康状態)までの値をとり、横軸の生存年は文字通り生きた年数です。例えば「健康状態で20年、その後病気で寝たきりとなりQOL0.3の状態でも10年生きた患者X(QALYは23)」と「病気によりQOL0.5の状態でも30年生きた患者Y(QALYは15)」を比べてみると、生存年は同じ30年でもQALYは患者Xのほうが高くなります。(図1)

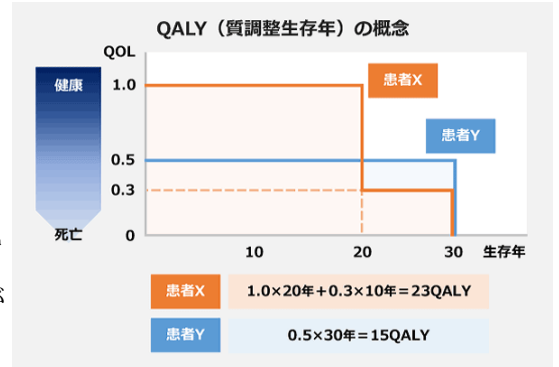
横軸の生存年については、比較的理解しやすいかと思いますが、縦軸のQOLとはなんなのでしょうか？

一般的にQOLは、「からだの健康」と「こころの健康」の2つに分けられます。「からだの健康」という点については、例えば物を持ち上げたり、歩くなり身体機能を客観的に評価し、それを数値化して、他者と比較することが可能です。

一方で「こころの健康」については、その状態を数値化し、それを他者と比較することは、簡単なことではないと思われます。

「こころの状態」はその評価の大部分が主観的な心象によるところがあるからです。

ある人にとっては幸運と感じる出来事でも、別の人にとっては不幸と感じることさえ起こり得ます。常に世界幸福度ランキングの上位にいるデンマーク人は、充実した社会福祉制度や柔軟な雇用制度のような社会システムへの信頼感から、将来への不安を感じる人が少ないという調査があります。一方で日本人での意識調査では、「老後の生活や年金などの将来への不安」と云う傾向が強く表れてくるようです。両国に細かい制度の違いはあれ、共に世界でも高い社会基盤が整備されている先進国ですが、なぜ意識調査にこのような違いが出てくるのかについては、興味深いところです。いずれにしても心が安らかであればこころのQOLは高くなり、結果QALYも上昇します。世界一の長寿国日本ですが精神面での不安の大きさ故にQALYはあまり高くないのかも知れません。皆さんもご自身のQALYを高めるため、ご自身の「こころの健康」を意識してみてはいかがでしょうか。



DANISH Danish Pork 親睦ゴルフ会

2023年11月18日(土)、取手国際ゴルフ倶楽部にてゴルフ会を開催いたしました。晴天の下60名の方にご参加いただきました。熱い戦いの末、見事優勝されたのは松田産業株式会社の皆川敦様でした。



DANISH ポークアカデミー開校

デンマークで長年培われてきた技術と理論を学ぶポークアカデミーが、ロスキレ市内のデンマーク食肉技術学校にて開校されます。

日程:2024年5月11日(土)~24日(金)
参加者説明会:2024年4月26日(金)
※デンマークポークアカデミーは豚肉に関する業界関係者のみを対象とさせていただきます。ご了承ください。

デンニッシュクラウン社 イエンスベック氏を囲む会の開催

デンニッシュクラウン社の輸出部長であるイエンスベック氏が今年勤続50年の節目を迎えます。この年月のビジネスを通じて日本の豚肉、外食、食品の業界において大変多くの方々との知遇をいただき公私ともに格別なご厚誼をいただきました。稀なことであり本人にとりましてまさぞ誇らしくまた幸甚に尽きることでありましょう。この記念(お祝い)の機会に終始彼の対面でありました日本側有志をもってささやかな集いを催して本人の忍耐(?)を称える機会としたいと発起いたしました。広く業界の皆様、過去にお付き合いのあった方々にもぜひお声がけいただきお運びをいただきたいと考えております。委細は別途発起人事務局よりご案内申し上げますので日程のほどをご予定いただきますようお願い申し上げます。

デンニッシュクラウン社 イエンス ベック氏を囲む会
発起人事務局 デンマーク農業理事会 小野澤

DANISH EVENING PARTY 2023



2023年12月13日(水)
帝国ホテル東京桜の間にて
DANISHEVENING PARTYを開催いたしました。4年振りの開催となった今回のパーティーは、100名様以上の会員の皆様にご参加いただきました。日頃の感謝を込めて、仙丸さんの江戸太神楽・澤田勝紀さんの三味線の余興の他、多数の景品をご用意した抽選会などを行いました。年の瀬のお忙しい中ご参加ありがとうございました。



編集後記 暑さ寒さも彼岸までという言葉がありますように、春分を過ぎ、ようやく春めいてまいりました。毎年桜が楽しみな時期ではありますが、ここ数年は桜の開花情報よりも花粉の飛散情報の方が気になってしまっているのは私だけでしょうか…。HW

デンマークチーズ協会 総会開催

4月19日(金)12:00~
帝国ホテル 桐の間にて
開催致します。

NPO法人デンマークの食と暮らしの研究所では運営経費の一部を会員の皆様から会費として毎年ご協力をいただいております。2024年度以降の運営では本NPO法人の活動をデンマーク農業理事会(DAFC)の広報活動の一環として運営し必要となる経費のすべてを農業理事会の予算をもって対応していくことといたします。会員の皆様にはこれまでの賜りましたご高承とご支援ご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。